

Handwritten text on the paper label, likely in cursive script, possibly reading "L. O. Jones" or similar.

926
A small white label with the number 926 and some illegible handwritten text.



Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written vertically within a rectangular border.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written vertically within a rectangular border.

石川雅望

里諺鄙話之不可入文也辟之猶
隘巷僻地之不可以起美觀也夫豫
章鞭楠伐于山林工匠掄之廼楮廼
梁以構大廈宏屋者在爽塏之地則
易成功也在湫隘之地則難矣而大
匠善成之紫氏清氏我邦之大家文
姬而文藻之深山茂林也良榦鉅材

英艷鬱葱以至偃蹇掘竒無所不
有焉伐以構大廈在其人乎五老山
人少時每聽賓旅戲談有圓轉滑稽
可解頤者則筆之以代蜀鞠圍碁之
樂爾來十數年為蠹魚之食者太
半今茲長夏曝書得舊稿於簾中
悉以古文修之如其竒古溫雅婉曲

秀麗不待余言善度材於二書中經
營一大殿堂其樸劉彫鏤之美粲然
溢目隘巷僻地儼如通邑大都心匠
之巧不亦大乎余開卷而嘆卒卷復
嘆三嘆之餘不能已終援筆題其
篇端盖山人結髮與余交矣放舟於
雪夜賞花於春園者既歷三紀山人

天性好學才氣輕俊博涉羣書其
志將繼芳躅於宇治亞相云

享和壬戌仲秋大邨詔書於日窪客
舎



志このすまゝ物録と目錄

強盜袴垂醫師盛之が家よ入奉

菅原孝標乃隣をよふけすれ女の奉

通俊卿の家れ女童の奉

修行者人を救ふ心をも奉

侍乃妻男に遺言をも奉

文章生乃第五節の中ねむす奉

大和國ふされ兜奉

毘沙門天窮鬼を逐行奉

商人門を飛越く女に入幸

大鼻某栗栖野ふく若女は遇幸

鐔あさころふ男は幸

遊女放屁をふ幸

商人茶枕を碎幸

受領の子乞児を断幸

信太森の糺の幸

博赤吉祥天を祈く福をばらけ幸

義清放屁を幸

あし局殿后の幸

美濃の老夫物よりかへふ幸

常陸介乃北方の幸

宮司父子愚痴をふ幸

えせきの酒歌をわらひをぐくし幸

那目禁酒の幸

博赤河豚を喰幸

兵藤太が妻密夫ふあふ幸

色好乃男簾の際に女をくち幸

志也何うちいふは五臟六腑をくもなすすたあ
てんといふは死す。志もくも知すむらむすむに
きうちその強あうもを強めくすりあつたひ行ふ
なうり。か^匙をもち強ふらう。こも強もえ侍る縁さ
あてもぬき人かもなごてすづくを歸すいよる
にうとのへだ威さいよく海つらうねふおもちして
くもわて。おひよおあて。某^{コウ}のういをもち
人をあうを奉^こと。は^こよりぬ強盛やうと意
いそ命^{いのち}をけさう人^{ひと}はま^まあうか^かか海^{うみ}ふれと
いふまが。顔^{かほ}うらむまそ。いよるあうわら。
むう菅原孝標^{すげのこうすゑ}やう人^{ひと}乃^{なり}と外^とにげも男^{おとこ}乃

あるけふむらあ一人まあ。いむすめ。はひ孝標が
家^{いへ}り。か^かひてなれま^ま。こもあ。あひ母^{はは}りい
けねを隣^{とりの}れはこ。こ物^{もの}かあふ。このふせ給て。せ
ありやあふ。そのおわ^わ。こもせま^まなりぬ。い^いさ
うりな^なす。す^す。わ^わ。一^{ひと}はま^まこ^こはま^まハ^ハ。い^い
侍^はり。い^い。伊勢^{いせ}。そのう^う。大和^{やまと}。物^{もの}。これ^{これ}も^もこ^こま^ま
こ^こも^もあ^あ。我^{われ}よ^よま^ま。び^びて^てん^ん。い^いハ^ハ。母^{はは}あ^あ。ま^ま。ま^ま
を^をも^もい^い。ま^ま。わ^わ。い^い。乃^{なり}。お^お。ち^ち。れ^れ。を^を。け^け。お^お
た^た。せ^せ。は^は。む^む。ま^ま。と^と。ま^ま。い^い。お^お。人^{ひと}。ま^ま。ま^ま。う^う。乃^{なり}。あ^あ。み^み。を^を
こ^こあ^あ。い^い。給^{たま}。ふ^ふ。こ^こも^もあ^あ。う^う。け^け。た^た。ら^ら。し^し。日^ひ。ま^ま
げ^げ。す^す。れ^れ。あ^あ。ま^ま。て^て。ふ^ふ。ま^ま。と^と。ま^ま。あ^あ。つ^つ。う^う。人^{ひと}。い^い。お^お。れ^れ。く



〇
 さいいさくがねおひきてねぬめりてかぶるをよひ
 まどひきしもうへをせしむるとつとめてあふぶとあふ
 つんふあうをうーかうーあ。
 すくして鼻大なる男ありなり。世ふは鼻大^{おとこ}は鼻^{なび}
 びなる。用乃幸あつて。さうす野をゆふらうり。はが
 さうせうまてる女乃。きつて人さだめちてゆくあり。す
 めのなるをせしむつて。身さふ十六七ばうり。あは
 女乃。いさくがねおひつて。さうさうり。髪もは
 髪にさく。いろあうり。をうーせしむ。さうくついで。
 うらほさく。ゆめさのそはらうらふ。さういも。あ
 あふ人も。足ねうれさく。さうさう。よかおひさく。

まよおひ志どくを疾ふよわてけえり。おろきふ
中へ成つてそそる乃細志あなを志て心よおろき
けるもかぶ管巾を海くしうぬ女乃。おとわ
ゆへぬおやうゆ。此野を梳あなりとうのこころ
つるふ。我をさる羅舞とそや人のすむおありや
こころはおけまははるよまをうあて女もむらひそ
おもとよも女もあはじ。たごめよそくあうめ
ちるばげせうにうち強いつりす。愈し。うらやひり
ふとひへ女うちけうまらたふ。やまこころあけて
やういぞまらねをむいよめ。乃ほふの志てりふるこ
まこころの物のいしうなまおはりぬ。ぞ馬よてハ育

げなふとあ急あらふ。ふつ時又いらよ。愈お詞のね。
そばとわてあ。ばや女もあ。いぞがゆりける。人をうこ
がひて。いづおまを。見るとのちに。ほりそ。が。あ
らぬ

○
えせさあ。ひれあひ志れ。あがえ。ほうし。もうちひが
免。ころを。ぎに。けそ。な。く。と。こ。と。ま。わ。て。七。條。乃
大。海。を。巻。巾。ば。ら。る。女。志。と。あ。ま。ら。う。よ。い。づ。つ。ひ。お
ら。る。う。ま。も。あ。り。し。け。い。き。う。く。と。ま。び。て。ま。ら。に。つ。ま
ち。〜。て。ろ。ろ。や。に。ま。ま。ま。ら。〜。ら。ら。ま。あ。り。る
お。と。も。は。お。ち。り。した。る。物。を。あ。つ。り。と。そ。と。い。を。り。
中。の。こ。ろ。ぬ。ま。の。い。づ。ら。れ。あ。る。わ。を。結。ま。ご。ろ。よ。う。む。ら。時。

人れもろが覚おひてあねふとむげよあひあれく
もてゆるふをかういそるもゆるふ事れはけり
よとてぬうつくあうにせうがやこ眠り入てあて
起ざりしかり大い酒乃う人あかかあき人といみ
いおあやもちをすけり狂薬とよながけぬ
ふいざふあうにきあうさうとけり

○
むう一菓乃れそやうや他よをゆそをさるみら
みて市中々ふるものあをよあありううにかふ
乃はむのふるあねふふありなるを清車せうち
よるとは覚えあてあかかあてこよふはゆるやが
てあふぶよのまもたよむこそあのまきうはむめさう

どあひいをせとつあふいよのりてあひあて
あひい二十文とてあゆふとらふ隨身のらく大殿乃
めさうせ給ふふあわいぞあひいさくハヤすぞうあ
げわてきうくまうせといひい人い急張うらうあそ
何きい二十文とてきうふるわとやうなれハ牛個
とわゆるらまていぢぢたをといひなるとせ

○
いろこねもたなりん殿男あわきるあまひれうら
てそひふて物さるうてつりなるよあのおあぢい
はこやうこころとくはいふゆのふゆるむとねもあぢ
とづら念とてうちかてふはゆたにやと大なるる
そらやのよあしんるよとけふうこりうらや男ふ

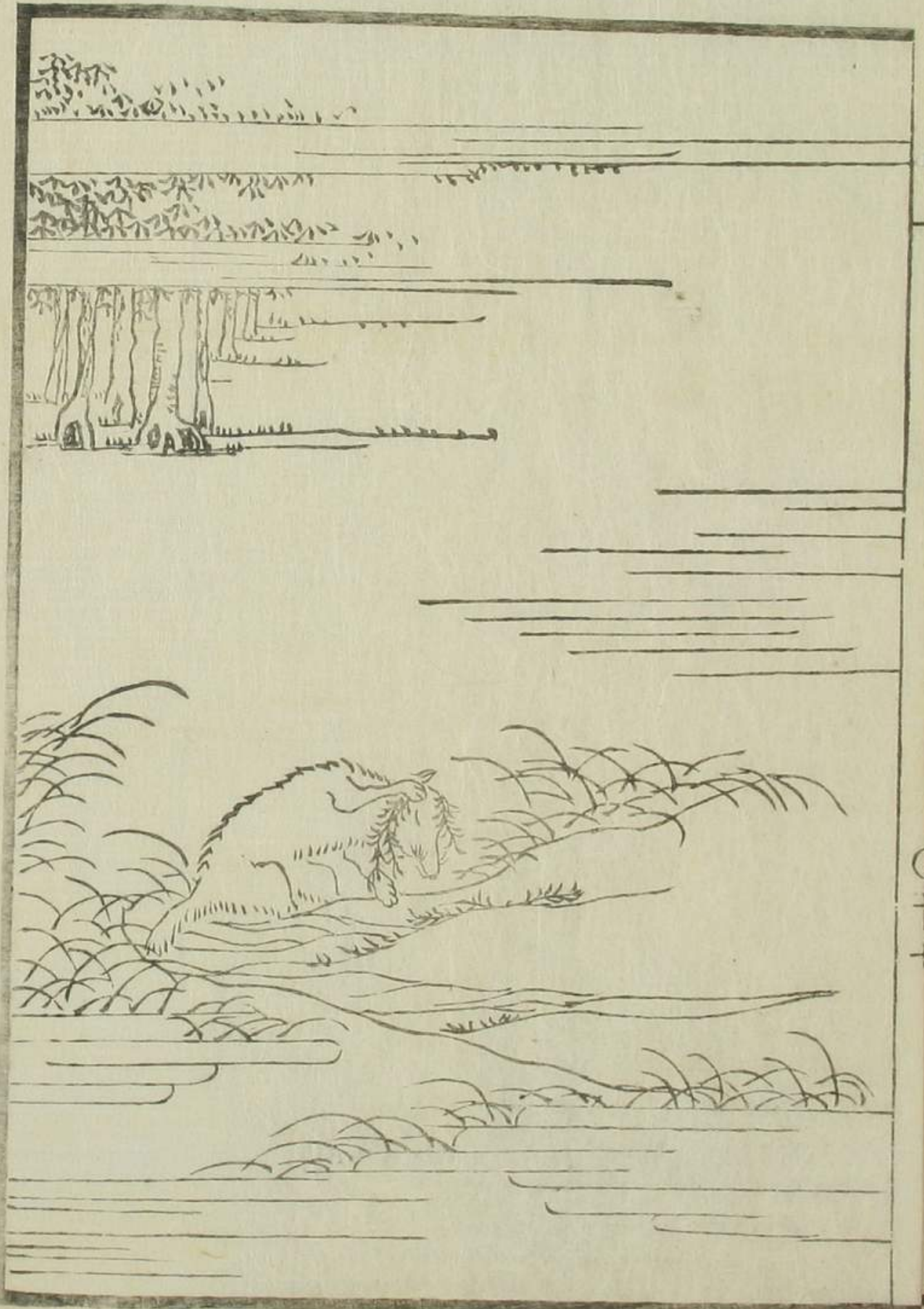
むらひてきま今れ程とさう終ひつややく男といふ人すべ
たなれい。あゝお人やい。あゝ人などいひ。りぎうう。なる。城。
女系とよす。く。い。を。せ。乃。か。う。い。を。終。又。ち。う。い。佛。小。
い。の。う。そ。て。松。山。は。波。を。う。き。呼。中。れ。清。水。を。う。そ。て。か。ん。じ。
こ。も。終。じ。と。ち。お。り。う。う。め。ま。じ。ど。人。乃。こ。う。う。は。社。氏。を。ち。
め。れ。い。う。こ。う。に。あ。り。く。と。ち。う。く。な。な。あ。い。き。ま。て。終。ま。ま。を。
あ。が。ま。い。く。物。よ。る。ま。そ。い。ま。ま。ち。う。う。う。れ。あ。り。く。あ。い。ま。ま。
か。う。う。め。乃。あ。い。こ。う。終。ま。わ。達。袖。め。れ。い。う。う。ふ。心。も。満。こ。
ま。も。と。や。す。記。り。う。う。乃。ち。と。の。や。め。人。れ。こ。う。を。ま。ま。う。じ。
さ。れ。あ。よ。我。乃。う。う。う。の。恥。を。す。す。く。君。が。こ。う。を。あ。り。
見。じ。と。す。い。う。ま。ま。い。ひ。か。ん。ま。ま。ま。て。家。を。お。が。す。心。を。

さめ終ひぬん。さう。は。あ。う。れ。う。す。記。た。を。ま。と。か。い。
心。を。こ。つ。つ。い。い。男。を。や。ら。ふ。事。を。の。う。ふ。お。ね。を。ふ。
ら。へ。枝。を。か。ん。ま。ま。と。契。り。う。う。我。い。つ。ら。と。も。や。お。が。い。
あ。う。う。さ。な。を。終。り。や。さ。ち。あ。り。と。て。ち。お。り。う。う。事。ふ。
う。ぞ。う。た。が。ふ。き。ま。う。う。う。う。い。終。ま。う。む。た。り。く。う。い。あ。い。
ゆ。ふ。こ。う。ち。志。は。る。と。い。ら。ふ。事。は。女。志。す。ま。り。ぬ。と。思。ひ。
て。あ。う。は。か。ふ。あ。や。さ。ち。志。何。と。そ。て。は。こ。う。う。あ。あ。い。に。
と。は。お。が。さ。ぬ。ま。や。さ。さ。と。う。れ。う。う。心。な。く。た。ま。う。う。
や。そ。て。よ。わ。う。い。た。し。と。す。る。と。記。す。こ。う。大。な。家。お。お。た。に。
な。う。う。し。男。う。ふ。小。袖。お。あ。い。て。な。お。と。さ。い。と。ぬ。う。う。
ま。の。こ。う。い。志。す。ま。ま。い。ひ。ける。い。ま。を。う。う。起。い。ま。せ。の。

かきしひかふ。

④
こちれにあるものぬ地火爐はいでよふ奉すそと
具足なすだつらぬものをもむとて市ゆいふらわあま
じよの毒よあり紀ちやうこ人のかりたるをこそいじ
紀ものるわかりよとむいしく價をよしたれが銀五
身もつむと答ふが乃武士つうづる類志さす。たを
たぐ一あれ志うよもぬものなふ城をぞ五兩とけ
つづが。むらまき一ぢやう家あるを。あふ放す。
こはうちるものあふい。あふぢやうとくあぬ。をよ
もふまふのふあふ人あつたある。あてゆいのあま
もいしきで。うぞあふまけう。ねむすこやうはこ

⑤
とのある。いふせとむい。いふいと某を。あて。ふふ。ふ
家れあり。はら。はら。い。い。れ。おのれ。は。は。い。人。あ
いへ。ぬ。い。は。ば。あ。ふ。さ。う。の。さ。さ。い。の。さ。さ。い。は。
あ。さ。い。と。は。い。い。あ。あ。だ。か。の。ち。や。う。日。人。を。と。り。て。
あ。さ。る。の。い。は。う。ち。つ。あ。あ。う。く。さ。う。ち。さ。あ。お。て。さ。う。
の。い。ら。な。る。は。す。で。な。ち。や。う。日。人。を。び。く。さ。あ。ふ。を。い。
な。か。あ。る。と。さ。む。い。は。ら。あ。ふ。や。い。い。て。け。し。き。ら。た
ま。は。あ。さ。あ。い。う。を。あ。て。い。さ。う。い。も。あ。め。て。あ。つ。ら。る。と。が。
受。領。れ。子。の。さ。う。す。だ。う。こ。あ。う。ふ。あ。る。も。あ。り。ら。り。人。は
あ。ふ。い。ち。ま。き。そ。太。刀。一。輪。を。寄。つ。く。な。る。此。を。あ。つ。う。ね。る
さ。い。の。あ。ふ。ま。う。い。を。さ。う。り。な。ん。ず。と。人。よ。に。身。人。を。さ。る。

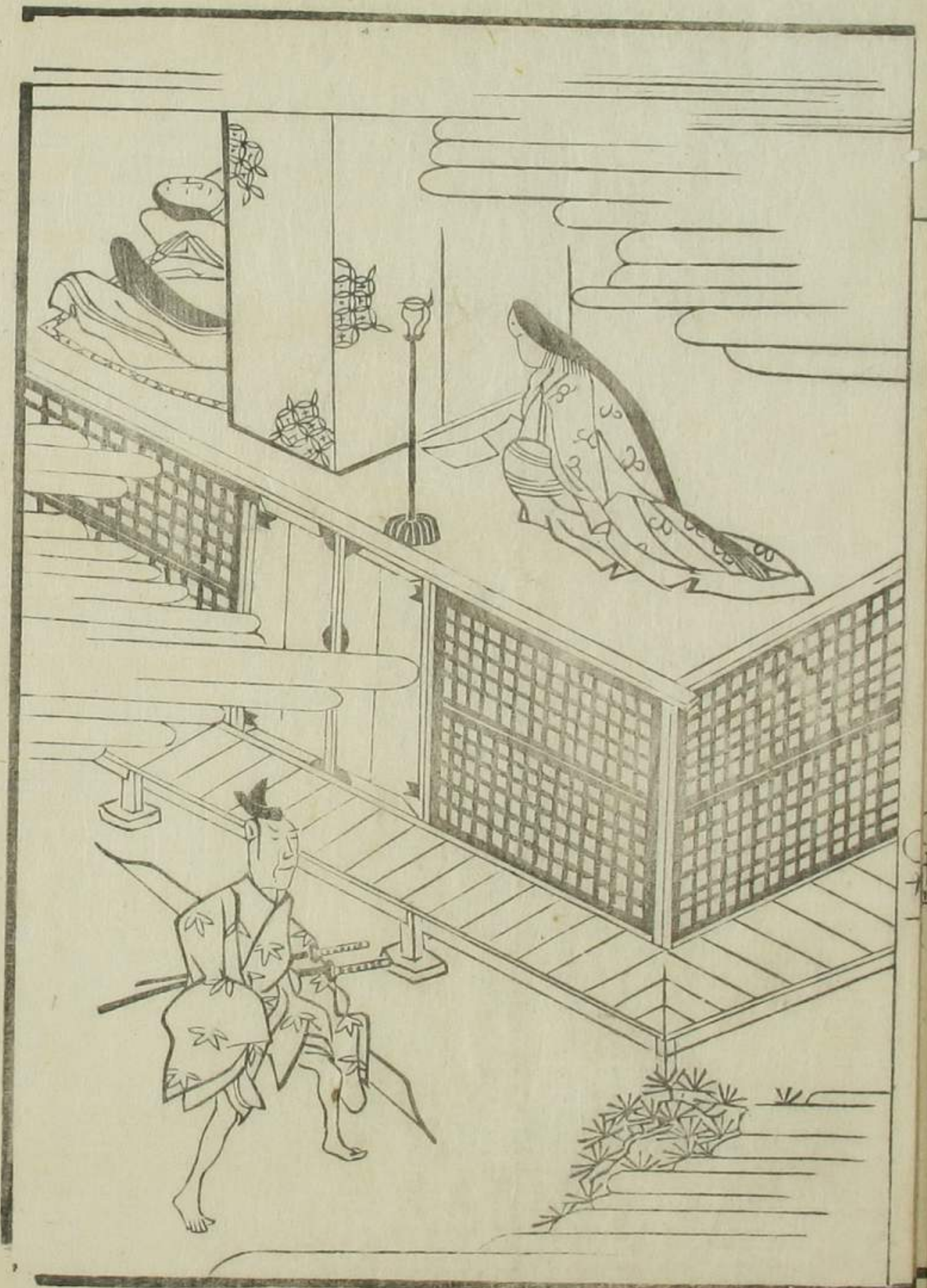


こころをなめて草むしれ中をいひつらるるを物をもふ
 人のきこふまゝなるをけるを帰りにまてかたりなる
 下をむ。

○ふふたうちれまけ極たひんせまるるうせんまへかして吉祥天
 此は極たひんせろふまうていりのなふいかうまうわなうて
 とふふたさきそのまははそそ侍まばいふいふてあるる
 両をまあぐれはゆるし出るまくとす何もまははとくに
 今一たび家をもをいひてむをうをけうりせ路の
 ねとうちちをなつて帳とま乃の前まへまうらうらうまはあ
 けるよまう中ちゆうちうりに吉祥きちやう天女てんによ帳とまをむせおりにて
 まゝなる清きよけうけうまをばのれなるしを法ほふとあすけく

てあましくぬ。惟まがなまらふより。またよき事いふるもの。あれ
をさへ。うらなきて。いつか。不事。もあれ。うら。思ひ。を
らふ。よ。八月。れ。さ。の。よ。お。れ。の。方。れ。の。あ。う。が。う。ふ。
入。お。り。く。例。乃。お。あ。れ。の。無。行。い。あ。も。な。ゆ。か
も。物。も。あ。え。も。え。わ。あ。ゆ。あ。り。ゆ。ひ。か。り。あ。を。び。
さ。う。ま。う。て。え。げ。き。う。ふ。に。死。つ。き。わ。ら。を。よ。
さ。よ。う。ら。さ。う。ゆ。に。心。あ。ま。そ。奥。行。大。智。を。あ。だ。
い。で。は。ま。し。は。お。て。ひ。お。か。し。と。う。い。る。い。ま。あ。い
を。お。あ。ら。き。終。く。教。を。け。め。人。こ。も。無。事。あ
く。胸。に。お。り。さ。る。と。れ。じ。
○ 南。新。ふ。る。宮。よ。な。り。女。房。あ。り。な。り。年。を。五。十。ば。い。わ

なれど。い。い。さ。り。て。常。小。朝。い。て。起。出。さ。ま。ま。ば
人。く。あ。り。て。あ。れ。局。と。い。は。れ。そ。う。い。は。る。その
お。ろ。伊。豫。國。と。い。う。お。の。す。む。の。大。将。軍。の。か。り。て
ら。あ。こ。う。さ。お。入。く。め。ま。す。お。か。し。と。て。教。の。中。さ。う
が。か。し。な。れ。が。お。の。ま。あ。も。武。士。の。う。お。か。し。は。る。さ。う
して。教。も。あ。い。あ。い。あ。り。く。女。こ。も。さ。う。心。志。ま。ま
よ。お。仰。せ。い。あ。い。な。れ。が。ね。び。人。の。う。お。り。一。人。つ。て。起。か。せ。
その。あ。い。ま。り。く。あ。ま。の。あ。れ。局。番。子。あ。り。さ。り。人
志。づ。ま。り。て。後。お。か。し。さ。う。い。か。し。さ。う。な。り。と。ま。ま
て。さ。る。ふ。人。も。よ。く。解。ら。な。い。び。ま。の。工。事。は。い。い
す。ら。ふ。か。い。の。中。に。あ。り。ま。り。す。れ。さ。う。あ。れ。さ。る。



鐘乃聲かねのこゑききてよの人の頼たのみなきはなはな
 さうそふ志あらはに秘ひしてなるもきこえがうかたをいれは
 うゝ志こゝろぐねうたたるもも人も志こゝろ解とくしむもい
 るち枕まくら志こゝろぐねうたたるもも人も志こゝろ解とくしむもい
 けれやうみちをいそ乃うたたるもも人も志こゝろ解とくしむもい
 こそゆねだうき目めきめてこそ志こゝろ解とくしむもい
 てうづつたをいそ乃うたたるもも人も志こゝろ解とくしむもい
 こそうく起おきき局ぐら中人ちゆうじんよこそわておそいけあう
 けりき路ぢひつめ秘ひしてなるもきこえがうかたをいれは
 おもて起おきき侍ざむらい志こゝろぐねうたたるもも人も志こゝろ解とくしむもい
 こそいそ女め房ふらう志こゝろぐねうたたるもも人も志こゝろ解とくしむもい

歌やどに老^{やう}ふ家司^{けし}れち走^{はし}りふをすのあり君^{きみ}て
よんぐしふらけらるもやあらんおあふるる^{地震}なひ乃
ふらして侍るを女房^{にようぼう}をらに志^しを給ふやとらうの局
大^{おほ}を我^{われ}をえうらむむかひつれらるとおひてあらうを
あておらうらふらうらと成^{なり}ぞのいふよるるよんわらうに
とのぬきて侍るをいふらと侍るばおましちうおおとく
いぞおこせぞやハ佳^{よき}ばおまらふも目^めさのあをばよきぞ
あいのあつらうらうら^や兼^{かね}けのそのどののどろしく先
づうよ大^{おほ}なるをいれらるとぞおまらふらと志^し侍るを
ついくちぬこ乃^の時^{とき}ばらうら^らに^にねられ姫^{ひめ}君^{きみ}の^の也^{なり}とよわ
らうらありてぢい乃^の奉^{ほう}らうえををまらひ^ひなるあぶ。

さいこのはぢの給^{たま}はるるよとぞ志^しを給^{たま}ひてよん
せ給^{たま}ひもある。

○
多^{おほ}濃^の國^{くに}は老^{やう}身^み於^お夫婦^{ふうふ}ありらるもるに七十^{しじゅう}にあり
まらうしひおふふ^やよのつと^と薪^{きん}をとりてなるしひい
志^しもふひも公^{こう}翁^{おう}ひよけおて^ひかへ^ここ^こば^ば姫^{ひめ}
あうらも^もれ^るも^もて^て門^{かど}は^はま^まち^ちは^はあ^ある^るふ^ふ成^{なり}
す^すら^ら此^{こゝ}に^に薪^{きん}の^のい^いく^く倍^{ばい}と^とま^まぬ^ぬい^いふ^ふあ^あら^らう^うわ
は^はら^らと^と志^しを^をく^くら^らり^りて^ても^もう^うひ^ひん^んふ^ふよ^よに^にら^らま^まひ^ひう^うも^もら^らぬ^ぬ
く^くか^から^らち^ちま^まら^ら計^{けい}れ^れら^ら人^{ひと}よ^よま^まら^らて^て幣^{へい}も^もつ^つや^やら^らぬ^ぬ
む^むら^られ^れま^まら^らひ^ひて^てあ^あは^はら^らま^まら^られ^れふ^ふ奉^{ほう}ら^らあり^りて^て
か^から^らら^らと^とま^まら^られ^れら^らく^くま^まら^らや^やら^らふ^ふ入^いら^らぬ^ぬ。

正してうんやと云ふはなほいへるがごとくあつてふと云ふ
 いまもやどわよか可し乳をまらひてあしをひきそ
 ぎふとぞいひつゝをむさふてふとくは
 すまへたるあやちりもとせむるははく人そふ
 常陸女あき方あきはなれく志ふさうす人そぞあり
 なるいとおあらうどのさうもはるし紀主常陸あき
 かさつふ人磨乃繪えさうぞんをわるとなるさう
 うごこのあでする人そいづもあて佐助
 者則つひなるとらむ方奥あうはく本丁ほんぢやうれうちよ
 いれ常のり母と侍さむらいず人磨よ侍とさういへ
 常つねといとあはさしあはさはす。

○ 官司くわんじ某あついりおれはのなるもその子れ太郎
 寺てらりるその意い親おや母はははらしておつらむがゆい
 家いへふまはばのやまのり玉たまれよのりりてナ
 意いを仰おほぎてお筆ふでをもちてあさうぶりを
 意い目め遊あそぶすそあはらぬがころ家いへふ。なふ事
 すりぞとそむ老帝らうていはをれかたうち落おすま
 せいらふ家目かめちらひひくあれをゆふやそら猫
 ぎらふ好このむをさるるうぶ筆ふでれるぬ色いろふうい志こころを
 とわえむさうばなやさをれちまをそらびてきよ
 せがいのあ。

○ あふ人そらへ乃のもた人ひとははひて和わ弁べんれ余あまをハ

かくありし秘蔵を大伴卿乃法をまじふ讃酒
 歌十三首を道風のふそふをまじふをわすけらるるを
 ことしめ見れ中ふ老ふ学生のあるけりすこ
 志ぞよめてかうべうらわしあまつけばはあまのふ
 一の皇神そらにはあまのけりけりけりけり
 する人も猶あまの心をよめやまをぬあまを
 け物よいあし合れりけりけりあまのあまの
 ぶつぞやけりけりけりけりけりけりけりけり
 ぬ母のまよふものぬるあまのあまのあまの
 奇いぞてくまらひするを人のあまのあまの
 ことてかつあまのながおれもあまのあまのあまの

見たりなりきて廟のあまのあまのあまのあまの
 旅人らのよと歌あまのあまのあまのあまの
 いたまのあまのあまのあまのあまのあまの
 涼乃奇よあまのあまのあまのあまのあまの
 ちうのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 ちうのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 侍まのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 志れくまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 人よむらひてまのあまのあまのあまのあまのあまの

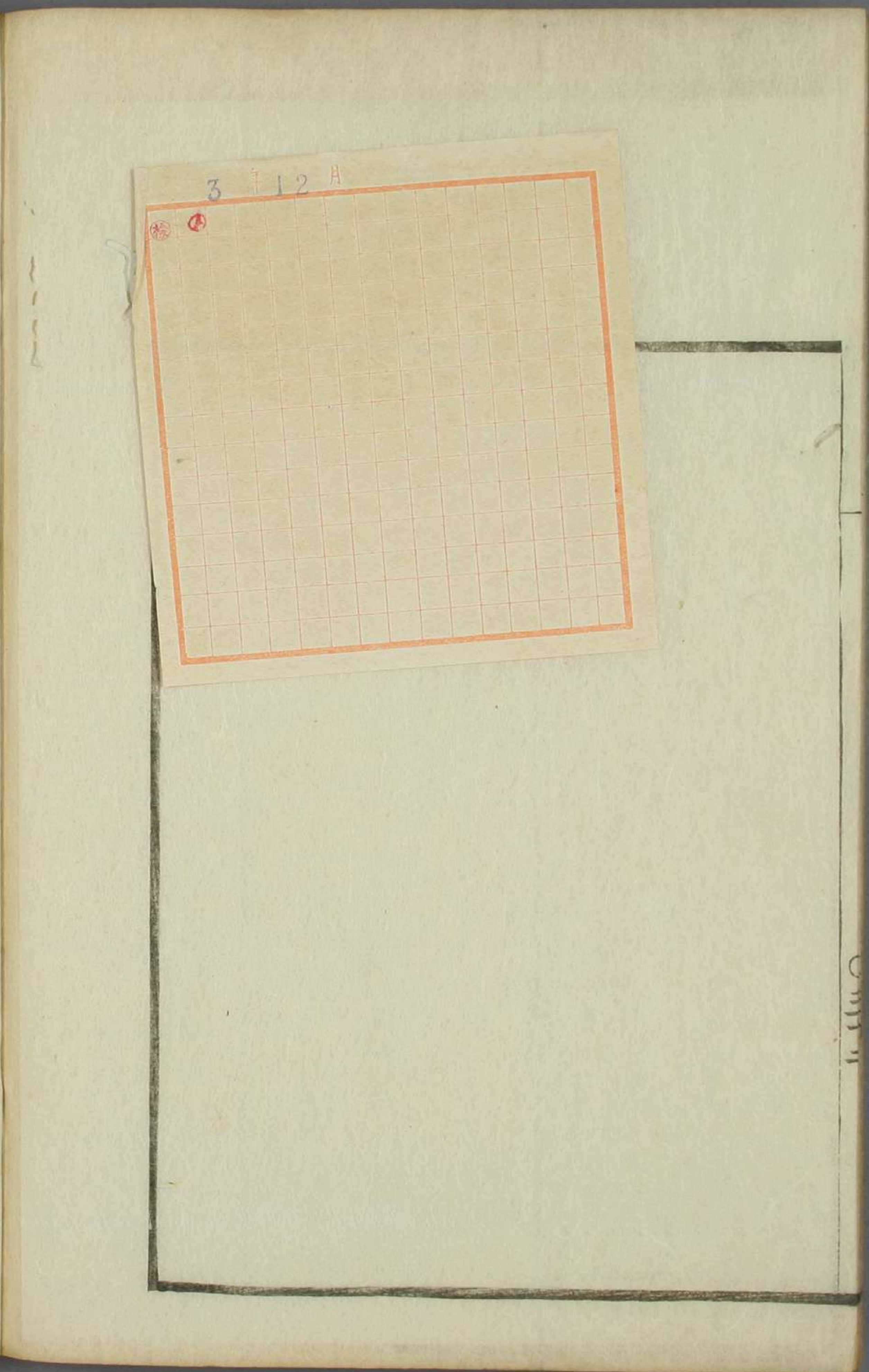
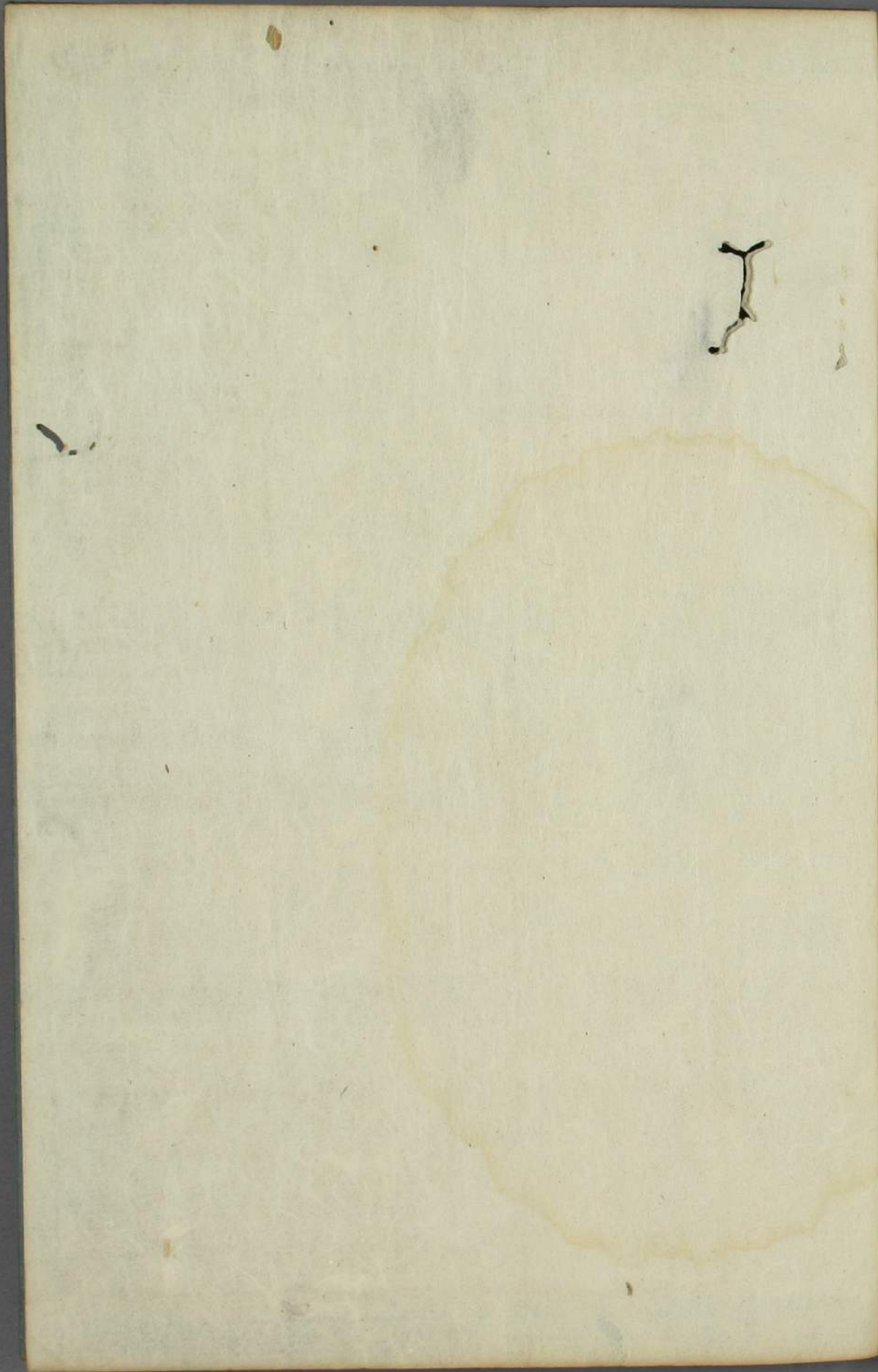
○たつ

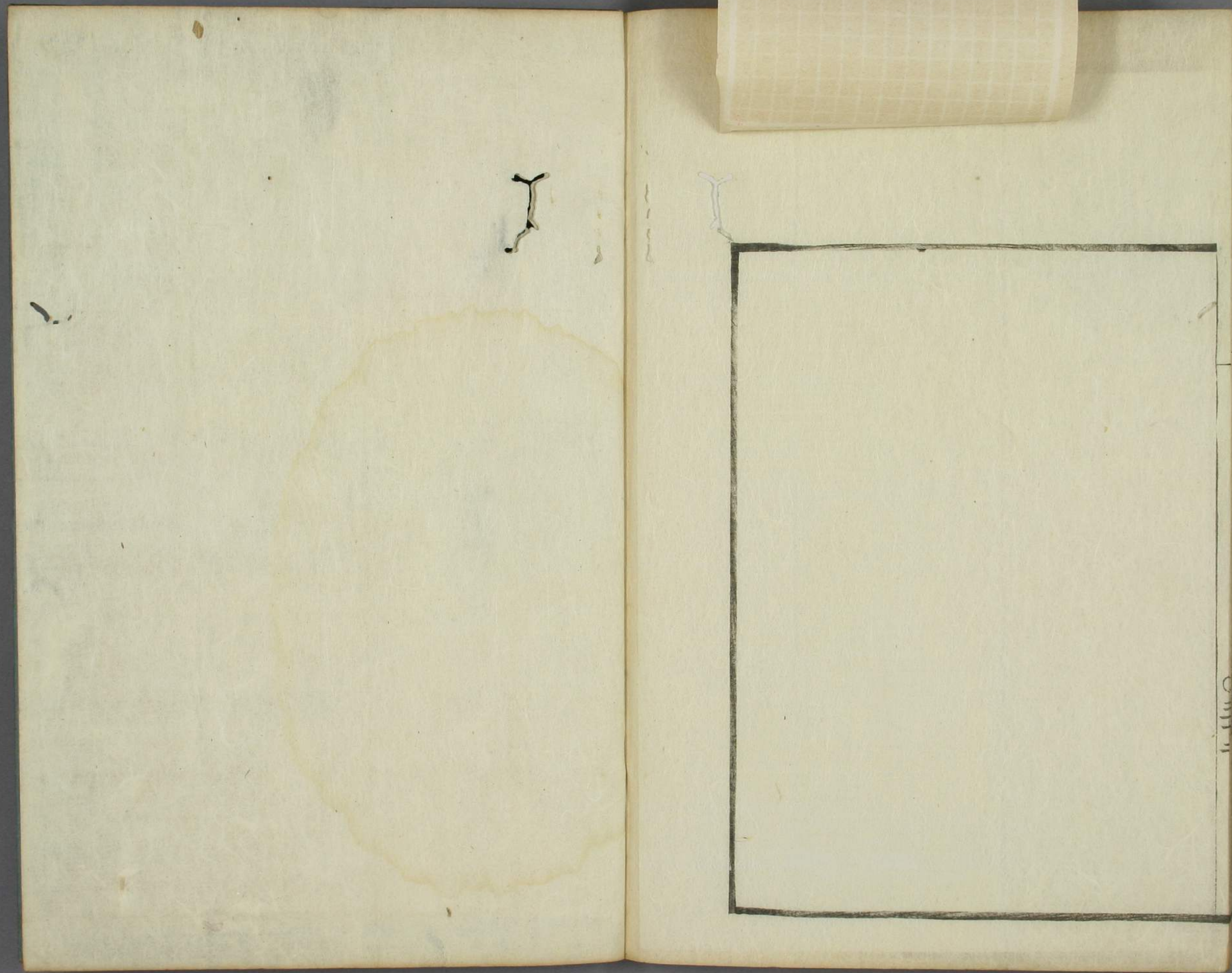
いさきしるよおのれらぢぢれ衣とていさるに我りの
ころををあざむりつるをむしりていさむしり
おのれらぢぢれ衣とていさるに我りの
すよのいさきしるよおのれらぢぢれ衣とていさるに
だすもあざむりつるをむしりていさむしり
大よあていさきしるよおのれらぢぢれ衣とていさるに
黄泉れいさきしるよおのれらぢぢれ衣とていさるに
りあ女ぢぢれ衣とていさるに
いさきしるよおのれらぢぢれ衣とていさるに
いさきしるよおのれらぢぢれ衣とていさるに

いさきしるよおのれらぢぢれ衣とていさるに
いさきしるよおのれらぢぢれ衣とていさるに
いさきしるよおのれらぢぢれ衣とていさるに
いさきしるよおのれらぢぢれ衣とていさるに
いさきしるよおのれらぢぢれ衣とていさるに
いさきしるよおのれらぢぢれ衣とていさるに
いさきしるよおのれらぢぢれ衣とていさるに
いさきしるよおのれらぢぢれ衣とていさるに
いさきしるよおのれらぢぢれ衣とていさるに
いさきしるよおのれらぢぢれ衣とていさるに

をほくし。何奉り。女よおのれらぢぢれ衣とていさるに
奉り。おのれらぢぢれ衣とていさるに
おのれらぢぢれ衣とていさるに
おのれらぢぢれ衣とていさるに
おのれらぢぢれ衣とていさるに
おのれらぢぢれ衣とていさるに
おのれらぢぢれ衣とていさるに
おのれらぢぢれ衣とていさるに
おのれらぢぢれ衣とていさるに
おのれらぢぢれ衣とていさるに

On the 1





Y

Y

11110

